

▼親子体操（子育て学習センター）



子育て広場

【開設時間】
午前9時～
午後1時

■南あわじ市子育て学習センター
みどり (☎44-3008) 開設日：月・火・水・金
せいだん (☎37-3028) 開設日：月・火・木・金
みはら (☎42-7703) 開設日：火・水・木・金
なんだん (☎50-3048) 開設日：月・火・水・金

身近な素材で遊ぼう

現代は物があふれるほどあります。しかし、おもちゃにあふれて遊ぶ子どもの姿に少し違和感を感じることがあります。大人もおもちゃに任せて子どもと向き合わずにいい時間が増えているのではないのでしょうか。買わなければ遊べないのではなく、身近な素材を使って、親子で遊びをつくり出すことができます。

①新聞やぶり、②新聞を丸めてボール遊び、③新聞をつかって「いないいないばあ」、④新聞に子どもを乗せてゆつくり運んであげる魔法のじゅうたんごっこなど、ここに書いただけでも、子どもと十分遊べます。

大切なことは、子どもと対話しながら遊ぶということ。お父さん、お母さん遊んで！の声がかかると、早速子どもも向き合って遊んでみてください。

(子育て学習センター) なんだん 仲間美佳)



●平成17年12月14日までの受付分(敬称略)
※この欄への掲載を希望しない人は、届け出のときに窓口へお申し出ください。

結婚 いつまでもお幸せに

夫氏名(地区)	妻氏名(地区)	届出日
武田 道和(八木)	榎本 あかね(市)	11月22日
林 大雅(榎列)	富永沙由理(榎列)	11月26日
山際 真治(北阿万)	山口 育子(福良)	12月1日
山下 貴史(神戸市)	狭間 智沙(阿万)	12月3日
石橋 一司(神代)	原 晃子(賀集)	12月5日
池田 博之(八木)	上原 朋子(淡路市)	12月6日

●人口 54,282人(前月比-73人)
(男) 26,203人(前月比-35人)
(女) 28,079人(前月比-38人)
●世帯数 18,044世帯(前月比+3世帯)

※平成17年12月1日現在

編集室から
川卓「みなさん、明けましてM典「おめでとうございませう」M典「川卓「本年も広報南あわじをご愛読のほどよろしくお願ひ申し上げます」川卓「今年も成年。犬は身近な動物なので年賀状で、ご自宅の犬を写真に撮って使っている方も多いのではないのでしょうか。M典「川卓「犬を飼っていますか？」M典「飼っていますよ。雑種でユ一って言うのですが、私が家に帰ってきてから、私に無視してきます。あまり私に関心がないようですね」川卓「可愛がってないからじゃないですか。二日酔いで体がだるいときにでも散歩に連れて行ってあげてください。よくありますよね、年始は特に」M典「まっお互いお神酒をやりすぎないように、4日は元気に出勤しましょう」川卓「そうですね」M典「それと、部屋が情報課に変わるから間違えなようにしないとね」川卓「ご心配ありがとうございます。今年も可愛がってね」

地域のおじさん・おばさん運動

青少年育成センター ☎37-3026

たて続けに悲惨な事件

わが子を安心して通学させることも、戸外で遊ぶことも、子どもだけ家に置くこともできないような、そんな社会になってしまったのか。子どものことについて、親の不安がますます高まっています。

監視カメラと地域の目

子どもの被害が多発するなか、警備会社では学習塾や習い事の行き帰りに送迎するビジネスを始めたり、学校や保護者が子どもにICタグをランドセルに付けさせ、子どもの行動を常時把握するシステムを導入したりしています。南あわじ市も小・中学生全員に防犯ブザーを持たせていますが、防犯ブザーの携帯電話を子どもに持たせる「位置情報サービス」も急増しています。また、個人情報

主役は、やはり地域の力

の保護が制度化される一方で、まちのあちこちで監視カメラが作動する社会となっています。奈良県では、子どもに対する不審な「声かけ」を取り締まる条例案が提案されたようですが、ここまですると、善意で子どもたちに語りかける地域の人も、おちおちと声をかけられなくなり、子どもとつながることができなくなってしまう。このような社会になることが果たしてすばらしいことなのでしょう。

子どもの人権を保障するには？

本来、子どもはいつどこにいても、何の心配や不安もなく遊んだり学ぶことに集中できるならばなりません。大人がかっこよく簡単に「子どもは社会の宝」と言っているのかもしれませんが、そう言えるためには、子どもが安心して、子どもを存分に生きることが保障してやらねばなりません。そのことが子どもの命(人権)を守る基本であるはず。

皆さんも活動に参加を

皆さんの参加により平成十四年度から南あわじ市(三原郡)からは「ハートブリッジメンバース」地域のおじさん・おばさん運動」を展開しています。この運動は、子どもとながら、子どもの心を育み、子どもを見守っていく大人の取り組みです。子どもに関心を持ち、ほほえみであいさつや声かけなど、自分のできることから進んで実行し、子どもとのつながりを育んでいきます。この実践こそが、子どもの心を育み、そして、非行や犯罪を防ぎ、犯罪被害から子どもを守り、また不審者の出没を防止する本道の近道であると信じます。

この運動は、誰でも参加でき、一人でも実践できるのです。大人が変われば必ず子どもも変わります。市民の皆さん、あなたもぜひメンバースに登録して子どもたちを応援してください。

